

## トムラウシ遭難と自己責任論（ 4月13日付け mail ）

おはようございます お世話になってます。 掲載お願いします。

自己責任は近代私法の原則の一つとされているので、市民革命のときのブルジョアジーの主義主張だったのだと思う。レッセ・フェールとも関連するのだと思う。欧米ではいろいろなイデオロギーがスローガンとして時々持ち出してきたそう。これが日本で広く使われるようになったのは、ネットでみんなが使い出したからだと言われる。10年ぐらい前からみんなが多用するようになったという。パソコンが普及し、ネットにつながれ、みんながブログに使い出したのだという。まず2チャンネルで使われ、それが一般のブログに、さらにネット以外にまであつという間に広まっていったのだそうです。2004年のイラク人質事件では小泉首相が自己責任を唱え大衆の支持を得た。2004年流行語大賞になったそうである。小泉首相はこれで反対勢力を葬り去ったという。いまではネットで書き込みの際にはこの呪文を唱えることが約束となったという。（自己責任で見てください。）

自分のことは自分で始末をつけろ。自分でまいた種は自分で片をつけろ。このように他人に対して攻撃する言葉として多用される。交通事故もそこにいるほうが悪いんだ。外に出る以上事故の危険を覚悟するべきで自己責任だ。さらには子供が自己責任で宿題をやらないと決めたから文句を言わないでというそう。自己責任で高山植物保護のためのロープの中に入りますという人がいるそう。自己責任で強盗します！自己責任で覚せい剤をやっています？

これほどにも恣意的に使えるタームは、2チャンネルの愛用者には便利だったんだ、それで飛びついたのだろう。そしてそこからみんなが使い出した。ネットの書き込みには非常に便利だと思う。匿名の人間が無責任なことを理屈づけて言うにはぴったりだ。屁理屈をカムフラージュして、相手を困惑させて言いたいことを言うのだ。冗談として使うべき言葉になっていると思う。だからこの言葉はまじめな議論では警戒してかからねばならないと思う。背後には何があるのかを分析するべきである。この言葉が使われる前はどういう言葉で言われていたかを考えるべきだと思う。またまじめな議論ではあまり使うべきではないと思う。詭弁。

なぜ登山に自己責任論が使われるのだろう。

①他人が、雪山などの遭難には救援隊を出すべきでないという場合。自己責任で行ったのだから、行政サービスはいらないというのである。

②単独登山者や仲間だけで行く登山者が自分たちの自戒として自分のことは自分ですという場合。これはあたりまえのことで、10年ほど前は自己責任という言葉を使わないでやってきたことである。自分たちでやるしかないのだからいちいち自己責任を持ち出す必要はないと思う。ヒマラヤに登る人が自己責任を言っているが、誰もいないのだから死にたくなければ自分でやるのは当たり前でないか。自己責任という言葉がなかったときも同じである。いちいち登山は自己責任だと言って他人に心理的圧力をかけることはないと思う。自戒だとしても他人にはお前は自己責任がないから登るなと聞こえると思う。年寄りや来るなという意味が出てくる。自己責任をいちいち言わないでほしい。山は危険だということを使うのはいいと思うが、それだけでいいと思う。

遭難した場合は、単独行だと最後まで救援依頼をしない人が多いのだと思う。自分のためだと自己責任の考えから躊躇するけれど、他人のためなら救援を依頼するというのは自己責任に反しないと考えるのではないだろうか。組織登山者の場合は自ら救援隊を組織して行くことになっている。これも昔からやってきたことで自己責任を持ち出すまでもないと思う。

③救援隊関係者が安易な救援要請が多いとして自己責任を強調する場合。安易なのはまずいと思う。しかし、自己責任を強調すればがんばりすぎてかえって大きなことになってしまうことがあるがこれは問題にしないでいいようである。救援隊としてはとにかく救援の依頼がないほうがいいのであって、事故の犠牲の多寡は問題ではないのだろう。目の前に現れねばいいのだ。

④参加者は自分にミスがあるときには、自己責任を問われたくないでミスを隠そうとする。自己責任をガタガタ言われるくらいなら、自分で我慢すれば無事に切り抜けられると思って、結局二進も三進も行かなくなって、それでも我慢してついに動けなくなってしまい皆に知られるところになる。だから自己責任は事前に啓蒙的にのみ言うべきではないか。事後（登山が始まったら）には自己責任を言うのはまずいと思う。事後にはむしろミスを言い出しやすいようにすべきだと思う。

⑤ツアー登山の場合　ガイド、会社から参加者に対して弁明としての自己責任論。参加者がまともな準備をしなかったことが悪い自己責任論。ガイドがミスをしてそれに対処しておくべきだった自己責任論。こういう会

社または企画を信じて申し込んだのが悪い自己責任論。4つ星の基準を満たしたとしても、悪天候のために6つ星になることもあることを覚悟すべきで、それに耐える体力がないのが悪い自己責任論。自分で防寒具を着たり食事を取るべきだった自己責任論。低体温症で判断が鈍っていたとしても、低体温症でそうなることを覚悟しておくべきだった自己責任論。ガイドがいるので自分を安心させたとしてもガイドは万能ではない自己責任論。黙って死んだとしてもそれは自己責任で死んでいったのだからガイドを批判するのは亡くなった人の意思ではない自己責任論。

ツアーの参加者の過失によって事故が起こってもガイドに責任はないが、それは債権者の過失は債務者に責めはないからであって、自己責任を持ち出す必要はない。安易な参加者がいるので自己責任を強調するのだという。登山で準備行為はそれこそ自己責任だからわざわざ言われなくてもいいのではないか。安易であろうとなかろうとそれも自己責任だと思うが。自立した登山者であるためにというがそれも自己責任ではないか。自立していないために事故が起こったとしたらそれも自己責任だといえればいいのでは。誰かに言われんでもいいはず。自己責任を教えること自体が自己責任に反すると思う。自分でやればいいはずだから。雪山入山に際して警察が届出制をしたりするのと同じ考え方である。

32歳ガイドが救援を遅らせた理由がいまだに明らかにされていない。私の仮説(思いつき)はこのガイドは自己責任にとらわれていたので、自分で何とかしようとして時間を使い、遅くなったという仮説です。